

平成 19 年 度 教 育 研 究 業 績 書

氏名 藤 原 剛

最終学歴	京都大学農学研究科博士課程単取得満期退学
取得学位	京都大学農学博士
所属学会	日本ハンセン病学会、日本農芸化学会、日本糖質学会、International Leprosy Association
現在の専門分野	糖類の合成化学、免疫化学
研究課題	合成糖鎖を利用したハンセン病の早期血清診断法の開発 合成糖鎖を利用した抗体の抗原認識機構の解明

【研究上の特記事項】

- 1 外部機関からのELISAによる抗PGL-I抗体価の測定依頼に積極的に対応した。
向日良男博士（明治薬科大学）、並里まさ子博士（おうえんポリクリニック）との共同研究の一環としてハンセン病の血清診断法の確立のためにNT-P-BSAを用いたELISAやMLPAに関する技術協力を行った。
- 2 牧野正彦博士（ハンセン病研究センター）を中心とするベトナム(Quyhoa National Leprosy-Dermatology-Venereology Hospital)でのハンセン病に関する疫学調査に参加、PGL-I抗原に関する部分を担当した。
- 3 改良された合成法で合成されたNT-P-BSAの血清学的性状と抗NT-P-BSA単クローン抗体DZ1の立体構造の詳細な解析を行った。
- 4

【教育上の特記事項】

- 1 環境論、人間論：プリント、ビデオ、OHP等を多く取り入れ受講生の関心が持続するよう努めた。
- 2 環境論V：実験のために必要な下準備はできるだけ教員側でやっておくことで時間的な余裕を確保し、受講生が落ち着いて実験する事ができるように配慮した。希望する学生には講義時間以外にも実験を行い学習を深めることができるようにした。
- 3 環境論、：化学の知識が不十分な学生が多ので、繰り返し練習を行い、自信を持って実習に取り組めるよう配慮した。結果の発表会のやり方を、より発表がしやすい形に変更して討論の活性化をはかった。
- 4 世界遺産学：スライドを中心とした講義にして、エルサレムの魅力を十分に伝えるよう努めた。

【社会的活動】 特記事項なし

【学内活動】（学内職歴を含む）

教養部人事委員長
男子卓球部顧問

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学会発表) ハンセン病菌特異抗原PGL-Iに関する研究	単	2007年8月	おうえんポリクリニック研究集会	PGL-Iに関する世界の研究についてNT-P-BSAを中心に、合成、血清診断、疫学等の最近の状況を最新のデータ等に基づいて発表した。